

グリーンリーディング資料の使用を制限する解釈 4.3a/1 に関連する下記の質疑応答は新しい規則が施行される 2019年1月に発効します。

1. グリーンリーディング資料の使用の制限はどのような場合に適用されますか？

この解釈は、グリーンを読むというプレーヤーの能力がパッティング技術の不可欠な部分として残るように、プレーヤーがパッティンググリーン上でプレーの線を読む支援のためにラウンド中に使用することができる資料を制限しています。その結果として、この制限は次のストロークに適用されます：

- パッティンググリーン上でプレーヤーが行うすべてのストローク。
- どこからであっても、プレーヤーの意図が球をそのパッティンググリーン上に止めようとしている場合に、パターで行うストローク。

2. プレーヤーは規則 4.3 に違反せずに「縮尺の制限」に適合していない画像を含んでいたり、その本自体が「サイズの制限」に適合していないヤーデージブックやグリーンブックを使用することができますか？

プレーヤーはパッティンググリーン上でプレーの線を読む支援のために「縮尺」や「サイズ」の制限に適合しないヤーデージブックやグリーンブックを使うことは認められません。

しかしながら、プレーヤーはそうした冊子を罰なしに別の理由で使うことができます（グリーンへのアプローチショットをプレーする場合に、パッティンググリーンの一般的な傾斜を判断することを含み、そのアプローチショットをどれだけ遠くに、またどこに打つのかを判断するためや、自分の次のストロークのために球を止めたいと思う望ましいパッティンググリーン上の位置を判断するためなど。ただし、どのような場合もプレーヤーがそのストロークでパターを使わないことが条件となります。）。

3. プレーヤーやキャディーが手描きしたパッティンググリーンの画像はこの解釈の「サイズの制限」に適合している必要はありますか？

はい。その詳細さのレベルによらず、どのような手描きのメモ（パッティンググリーンの手描きの画像を含む）であっても 4¼インチ（10.8cm）×7インチ（17.8cm）のサイズの制限に適合している本や紙の上に描かれていなければなりません。

4. プレーヤーやキャディーが手描きしたパッティンググリーンの画像はこの解釈の「縮尺の制限」に適合している必要はありますか？

いいえ。手描きの画像は「縮尺の制限」に適合している必要はありません。そうした手描きのメモについての唯一の制限は、サイズの制限に適合している本や紙の上に表示されていなければならないということです（上記質問3）。

5. プレーヤーはアプローチショットのためのプレーの線を判断するためにサイズの制限を超えたパッティンググリーンマップの画像（例えば、8½インチ（21.6cm）×11インチ（27.9cm）の紙に描かれている）を使うことができますか？

はい。そのプレーヤーがそのストロークでパターを使わない限りは、サイズの制限を超えたパッティンググリーンマップの画像を使うことができます。

6. プレーヤーやキャディーがコンピュータデザインプログラム（コンピュータ支援設計（CAD））を用いて作成したメモは「手描き」とみなされますか？

いいえ。「縮尺の制限」や「サイズの制限」に適合するパッティンググリーンマップを作成するため

に CAD を使うことはできますが、「手描きの」メモの規定はプレーヤーやキャディーが物理的に手描きしたメモにだけ適用されます。

7. プレーヤーやキャディーは別のプレーヤーやそのキャディーが手描きしたメモをコピー（複写など）してそのコピーをパッティンググリーン上でプレーの線を判断する支援のために使うことができますか？

いいえ。コピーしたメモをパッティンググリーン上でプレーの線を判断する支援のために使うことは別のプレーヤーやそのキャディーのメモを使うことと同じことであり、そうしたことは認められません。

8. 冊子の中の複数の画像が「縮尺の制限」を超えている場合、プレーヤーは縮尺の制限に適合するように画像を縮小するためにコピー機を使うことができますか？

はい。コピー機を使うことができます。

9. プレーヤーはパッティンググリーン上でプレーの線を判断するために 18 ホールのうち 1 ホールだけ縮尺の制限に適合していないグリーンの画像を含む冊子を使うことができますか？

はい。しかし、そのプレーヤーは縮尺の制限に適合していないグリーンの画像のホールではそのパッティンググリーン上でプレーの線を判断するためにその冊子を使うことは認められません。そのプレーヤーは縮尺の制限に適合している 17 ホールのグリーンの画像を、パッティンググリーン上でプレーの線を判断することを含め、どのような方法でも使うことが認められます。

10. キャディー同士はラウンド前やラウンドとラウンドの間に情報交換してお互いのメモを手描きで複製することができますか？

はい。手描きのメモについての制限は、パッティンググリーンについての手描きの情報はプレーヤーやキャディーによって物理的に手描きされたものでなければならないということだけとなります。そのことは、たとえそれが既成の資料や別のプレーヤーやそのキャディーのメモを手描きで複製することであっても、プレーヤーやキャディーがその情報を入手する方法を制限していません。

11. プレーヤーがキャディーA を使ってラウンドを始めたが、そのラウンドの途中でキャディーB に変更した場合、そのプレーヤーとキャディーB はパッティンググリーン上でプレーの線を判断する支援のためにキャディーA が作成した手描きのメモを含むヤーデージブックやグリーンブックを使うことができますか？

プレーヤーがラウンド中にキャディーを替えるという限定的な状況（例えば、キャディーA が病気になる）においては、そのプレーヤーはそのラウンドの残りでキャディーA とキャディーB の両方の手描きのメモを引き続き使用することが認められます。しかしながら、その次のラウンドでは、そのプレーヤーおよびまたは使用中のキャディー（そのラウンドで雇われたキャディー）によって手描きされたメモだけをパッティンググリーン上でプレーの線を判断する支援のために使うことができます。

12. プレーヤーがトーナメント中にキャディーを変更した場合、そのプレーヤーと新しいキャディーは以前のキャディーが作成した手書きのメモをそのパッティンググリーン上のプレーの線を判断する支援のために使うことができますか？

はい。トーナメントの間、パッティンググリーンについて手描きしたり、書き留められた情報は、そ

のプレーヤーがそのトーナメントの間に以前に使用していたキャディーが書いたものであればそのパッティンググリーン上でプレーの線を読むために使うことができます。そうしたメモを引き続き使用することができるということには、そのトーナメントが始まるまでの練習ラウンドの間にキャディーがメモを取っていたが、そのプレーヤーが別のキャディーでトーナメントのプレーを始める状況を含みます。

そのプレーヤーやキャディーが手描きのメモの制限の裏をかこうとするような状況について、この許可は及びません。

13. アドバイスギバーとして指名されたコーチやキャプテンは、プレーヤーの冊子にメモを書き入れたり、アドバイスを与えるときに自分の冊子をプレーヤーに見せることができますか？

はい。この解釈では、いかなるメモもプレーヤーやキャディーが作成したものだけに制限されると規定していますが、特定のラウンドで委員会にアドバイスギバーを届け出ている場合、そのアドバイスギバーの冊子やそのメモはそのプレーヤーのキャディーのメモと同じように扱われます。

14. フォアサムやフォアボール競技で、プレーヤーは自分のパートナーやそのパートナーのキャディーのメモを使うことができますか？

はい。この解釈では、いかなるメモもプレーヤーやキャディーが作成したものだけに制限されると規定していますが、規則 22.2 と規則 23.5a はパートナーやパートナーのキャディーはガイダンスを与えることができると明確に規定しています。

しかしながら、そのプレーヤーがその冊子をそのコースでの次のラウンドや競技で使う予定がある場合、そのプレーヤーの冊子にそのパートナーやそのパートナーのキャディーが書き入れたメモはそのプレーヤーがパッティンググリーン上でプレーの線を判断する支援のために将来のラウンドで使うことは認められません（ただし、そのプレーヤーがそのラウンドで同じパートナーやパートナーのキャディーを持つ場合を除く）。

注：ヤーデージブックの製作会社は、その冊子の全体のサイズと共にグリーン画像の縮尺をその冊子のカバーや図面の凡例の中に表示することを奨励します。例えば：

パッティンググリーンの画像は縮尺 5 ヤードに対して 3/8 インチ以下
冊子のサイズは 6 インチ×4 インチ